

個人情報の保護について

1. 個人情報保護と包括同意について

当院は、個人情報保護に関する法律や同関連法令等を遵守し、医療の進歩を目指した臨床研究を推進しております。診療および研究を円滑に進めるため、当院では患者の皆様以下に二つの方法を用いて「説明と同意」の確認をさせていただいております。第一に患者の皆様が十分な理解が得られるよう書面（又は口頭）で説明し、同意をいただく個別同意、第二に一定の基準を元にそのような手続きを経ないで同意をいただく包括同意があります。ここでは、包括同意に関して説明させていただきます。以下に示す事項については、この文書によって、患者の皆様が包括同意に承諾したものとみなします。当院の診療、研究の役割にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

2. 診療に伴い発生する診療情報・試料等の利用について

当院では、診療を行うとともに医療の発展に寄与するような臨床研究や基礎研究を行っています。その際には、診療に伴って発生する情報の利用が必要な場合があります。患者さんには、ご理解とご協力をお願いいたします。

<診療に伴い発生する診療情報・試料等とは？>

病院で診療を受けると、病歴（カルテ）、X線写真などの画像、生理機能検査（超音波検査など）、検査試料（血液や尿など）などが集められます。これらの情報は、診療に必要なものとして採取・保管されていますが、その後、診療上不必要となった場合でも、医学研究のための大切な試料となります。当院では、これらの情報を研究のために利用させていただくことがあります。

<診療情報・試料等を提供する対象者は？>

当院では、すべての患者さんにこれら情報の提供をお願いしておりますが、研究への診療情報・試料等の提供は自由意思によります。ただし、不参加の意思表示がない場合は、原則同意をいただいたものとみなし、倫理委員会で審査を経たうえで研究に利用させていただきます。なお、これらの意思表示の内容は、当院で受ける診療に一切影響を与えるものではありません。

<秘密の保持>

研究への情報の提供によって、患者さんに直接の危険性が及ぶことはありません。しかし、万が一、個人情報等が漏れてしまった場合、患者の皆様が不利益を被る可能性があります。このため、当院では情報漏洩を避けるため、厳重に機密保持しております。研究によって得られた成果を学会や学術誌などに発表する場合も個人が特定されることはありません。

<知的財産権>

提供いただいた資料を用いた研究の成果によって、特許権などの知的財産権が生じる可能性があります。その権利は Do-Clinic や研究組織に帰属し、患者さんご本人には帰属しないことをご了承ください。

3. 個人情報（患者情報）の取り扱い

当院は、「個人情報の保護に関する法律」及び同法に基づく「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、患者さんの個人情報を以下のように取扱います。

<医療の提供に必要な場合>

- 安全で質の高い医療及び高度で先進的な医療を提供するため。
- 医療安全や患者サービスの向上、医療保険事務、入退院等病棟管理、会計・経理事務等。

<医療の提供に必要な他事業者や本人以外への情報提供>

- ご家族等への病状説明。
- 他医療機関、薬局、介護サービス事業者、および社会福祉施設等との円滑な連携のため。
- 他医療機関等から、当該患者への医療を提供したい旨での照会があった場合。
- 外部医師等の意見・助言が必要な場合。
- 当院では、検体検査等の一部を外部業者に委託していますが、患者誤認防止のために情報を提供させていただきます。
- 医療保険事務の委託、審査支払機関へのレセプト提出、あるいは審査支払機関・保険者からの照会があった場合。
- 事業者等から委託を受けて健康診断等を行った場合は、事業者等へ結果を通知させていただきます。
- 医師賠償責任保険等に係る、医療関連専門団体や保険会社等への相談・届け出等。
- 医薬品等の製造販売後調査（薬品の有効性と副作用等を最小限にするため）
- 病院は、その運営が適切かどうかについて、外部から監査を受けるように法律で決められています。そのような外部監査機関等に情報を提供させていただくことがあります。

<医療、福祉等の向上に資する教育、研究等への利用>

- 医療サービスや業務改善のための基礎資料として。
- 当院内で行う学生実習や症例検討会等。
- 医療の発展に寄与するために、学会・学術誌等での発表に、原則匿名化して情報を利用させていただくことがあります。なお、十分な匿名化が困難な場合は、ご本人の同意を得ます。

4. 研修病院における学生実習について

当院は、卒前ならび卒後研修病院として、学生を受け入れて指導担当者の下に教育を行っています。実習または研修の一環として、診療に同席させて頂くこともありますが、次世代を担う医療人育成のため、ご理解とご協力を頂けますようお願いいたします。なお、実習生などの同席にご同意を頂けない場合は、口頭にて各スタッフまでお申し出下さい。

5. 問い合わせ窓口

以上につきまして、不明点や異議がある場合には、

- 診療（診療情報・試料等の利用）や学生実習等に関する事項の場合：担当スタッフまでお申し出ください。
- 包括同意全般に関わる場合：各部署責任者へお申し出ください。

6. 現在行われている包括同意による臨床研究一覧

ここでは、包括同意をいただいた試料・情報がどのような研究に利用されたかを確認できるよう、承認された研究課題について掲載させていただいております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報などを研究目的に使用されることを希望されない場合には、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究名	運動器疾患を有する成人女性における尿失禁の有病率と当院の骨盤底リハビリテーションへの認知度調査－年代別の検討－
当院の研究責任者	大山智美（リハビリテーション科）
本研究の目的	尿失禁は、多くの成人女性の QOL に影響を及ぼす疾患であると報告されています。しかし、尿失禁に対する治療を受けていない女性が多く、その背景に症状に対する意識の低さや対処方法への知識不足が示唆されております。本邦では中高年女性を対象とした報告が多く、ウィメンズヘルスリハビリテーションに対する意識や認知度についての年代別の傾向は明らかとなっていないのが現状です。 そこで本研究は、運動器疾患を有する成人女性の尿失禁有病率とウィメンズヘルスリハビリテーションへの認知度を年代別に検討することを目的に実施します。
調査の該当期間	令和4年9月～11月
研究の方法	<対象となる方> 上記期間に当院にてウィメンズアンケートに回答した症例 <使用する情報>

	International Consultation on Incontinence-Questionnaire、過活動膀胱症状質問票、尿失禁に対する病識、骨盤底筋訓練の有用性、当院のウィメンズヘルスリハビリテーションの認知度と実施希望の有無、を自記式質問紙にて調査した。
個人情報の取り扱い	研究に使用する情報から患者さんを特定できる個人情報は匿名化いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業はありません
お問い合わせ先	電 話：011-222-3334 (Do-Clinic 整形・運動器リハビリテーション) 担当者：リハビリテーション科 大山智美 (おおやまともみ)

研究名	肩関節マニピュレーション前後の肩関節可動域の推移～罹病期間による比較～
当院の研究責任者	柏優花 (リハビリテーション科)
本研究の目的	肩関節マニピュレーションは凍結肩に対する治療法のひとつであり、疼痛や可動域の改善に有効な方法として知られている。 肩関節マニピュレーションの臨床成績には実施時期が影響することが示唆されているが、これまで実施時期について報告された研究は少なく、一定のコンセンサスは得られていない。 そこで、本研究では肩関節マニピュレーション施行前後の肩関節可動域の変化について、罹病期間による比較検討を行った。
調査の該当期間	令和2年11月～令和4年11月
研究の方法	<対象となる方> 上記期間に当院にて肩関節マニピュレーションを施行した症例 <使用する情報> 性別、年齢、罹患側、利き手、身長、体重、BMI、発症時期、罹病期間、当院初診日、肩関節マニピュレーション施行日、施行までのリハ期間、合併症、肩関節可動域 (屈曲・外転・結帯・下垂位外旋) をカルテ情報および評価用紙から調査した。
個人情報の取り扱い	研究に使用する情報から患者さんを特定できる個人情報は匿名化いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業はありません

お問い合わせ先	電 話：011-222-3334 (Do-Clinic 整形・運動器リハビリテーション) 担当者：リハビリテーション科 柏優花（かしわゆうか）
---------	-------------------------------------------------------------------------------